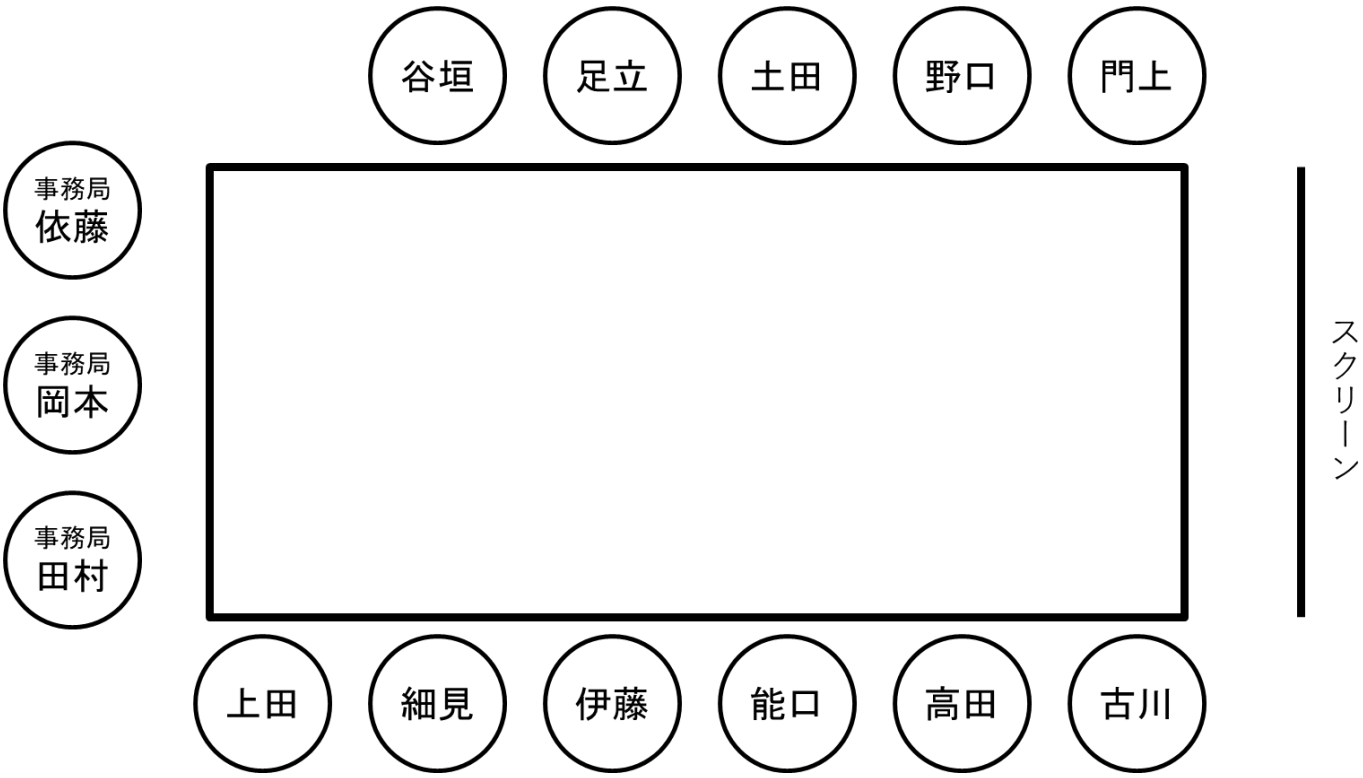
丹波市森林づくりビジョン（改定版）策定検討委員会[第 3 回]

議事録

日　時：令和 5 年 10 月 30 日(月)14 時～16 時半
場　所：丹波市立春日文化ホール　会議室
参加者：以下座席表画像参照



1　委員長挨拶

- 昨日は丹波の森公園の森フェスがあった
  - 運営側も厳しくなってきたのか縮小気味
- 大まかな枠組みは決まってきているが、次回に向けて作成に向けてご意見が重要となってくるので皆さまよろしくお願い致します

2　近況報告

- 委員 F
  - 2 週間前ほど、大阪の就職ガイダンスに出向いていた
  - 4 年連続で出させていただいている
    - 昨年は 120 名ほど、相談があったのは 13 件ほど
    - 今年は全体 32 名、相談があったのは 3 件
      - そのうち 1 名は兵庫県森林大学校の学生だった
    - 人を募集して確保する立場で言っているが、補助金率が 84%を切っているという状況の中で事業を拡大するつもりがあってもなかなか人を入れられない
- 委員 G
  - 今年はマツタケが不調
  - 人材募集は、高校に指定校求人をしているが問い合わせもない状況
    - 市内と、近隣の 3 つの高校にアナウンス
    - 子どもの数自体が減り進学希望が増えている傾向
- 委員 D
  - フォレストドアで、テレビ放送 2 回（ＡＢＣ放送のおはよう朝日ともう 1 社）
    - 1 日で 1200 人来てくれた
      - 9 割、阪神方面から来ている
      - 高齢の客層が増えた
- 委員 E
  - 寒くなり、木が動き始めてきた（市場に出てくる量も増えてきた）
  - 秋はイベントが多い
    - 八宿まつり（11 月 3 ～ 5 日）
    - もくもく市（11 月 25 日）などもある
      - 一般の方は木工をされているセミプロも結構な人数が来る
      - 地元よりも遠方からくる方が多い
- 委員 J
  - 活性化推進協議会では、各種協議会から森林組合からの要望、造林補助金への要望が相次いで増えている
  - 国の木材方策が出た
    - 県でも今月末に、県の方針を策定予定
      - 今までは公共木材が中心であったが、一般住宅にも広げる見込み

        - 管内の所長も集まり検討を予定
            - 神戸に行くことに合わせて造林関係の補助金、森林環境譲与税の活用（特に担当としては木材利用の活用事例）の情報交換を行う
- 委員 C
    - マツタケ山の入札時期、無事すべての山で入札が完了
        - 前年よりも少し収益が上がった
        - 夏の暑さが厳しく、出始めは遅れた
            - いつもより 2 週間ほど遅い
        - 猟友会と協議して、自身の村（下三井庄自治会）の中では山の収穫終了時期を遅らせることになった
            - 本来であれば狩猟解禁は 11 月 15 日
    - 森林山村多面的機能の事業も今年の活動を開始予定
        - 人工林を間伐しながら見栄えの良い森林にしたい
        - 春日町の森林同好会があったころに作った遊歩道を再構築予定
- 委員 B
    - 森林整備を粛々と計画通り進めている
    - 10 月から 11 月はイベントづくしで忙しい
        - 10 月には、尼崎市の市民祭りに出店
            - https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/festival/055siminnmaturi.html
        - 自治区でやる里山イベントを 21 日に実施
            - どんぐりの苗を植えたりした
            - 枝豆や芋ほりなども行った
            - 30～40 名ほどの参加者
        - 10 月 22 日(日)には丹波のゴーゴーフェスタで環境課にお世話になって生ごみ処理機の説明会なども行った
        - 10 月 29 日(日)には丹波の森フェスタに参加
    - 丹波の森もりびと賞を受賞した
        - 丹波の森協会が表彰
            - 一般の市民に周知する方法の 1 つとして実施
            - 今年が第 1 回目、4 団体が受賞
            - https://web.pref.hyogo.lg.jp/tnk11/20231027moribito.html
- 委員 A
    - 丹波市木材林産協同組合への問い合わせとしては、県産材利用をどれくらい供給できるかのヒアリングがあった
        - 公共だけではなく民間への供給ルートの検討
        - 具体的にどのような材が欲しいかというところに発展している
        - 普通製材だけではなく、不燃加工した内装材が不足している

- ✧ 不燃ボードに突板を貼ったような製品が内装材需要として増えていくだろうと見込まれている
- ✧ その中での丹波材供給がどのようにできるかが肝要
  - ✓ ヒノキの単板を計画的に生産できることは無いのか（ちょうど、高齢級のヒノキがどれくらいあるか調査を進めようとしたところだったので調査データは活用できる）
- ✧ 昨日までは東京の工務店と丹波の木材利用に関するヒアリングを行った
  - ✓ ＳＧＥＣの認証林担当者とも話をしていたが、丹波とは違う熱量
  - ✓ 必ず必要だろうということで熱心に取り組んでいた
  - ✓ 製品流通に向けてはあと一息だろうとおっしゃっていた
  - ✓ この地域であればもっと明確に情報をオープンにしながら製品を届けられるような仕組みがこのビジョンでも見えるようにしたい

➢ 京都、高知、和歌山の林大に講師に行っているが、就職先の選択の傾向として成績優秀者は皆、新しい林業にどう取り組むかということで各地の事業体を探し回っている

- ✧ フォレストワーカー（オペレーター）が欲しいのか、地域林業全体を担える人が欲しいのか、学生としてもどちらに進むかはより明確に分かれている
  - ✓ 林大でも社会人経験がある人は、目指すところは高いところを目指している
  - ✓ 高校卒業者はまだそこまでの意識はない（ただ、資格は取って出てくるため即戦力にはなる）

3　素案資料説明

※詳細は当日配布資料を参照のため、略

4　素案資料説明を踏まえた意見交換（参加者ごと、順番に発言）

・　委員 A

- 水源の森をテーマにすることは良いと思う
- 具体的に渓畔林の整備は、どのように取り組まれたことはあるか
  - 自身では、渓畔林の植生がどのようにあるべきかを考え、V 字のような谷でも上部を強度間伐しながら下に光を入れる等している
    - ✓ 崩壊加速するような木を、幅をもって切ってしまう
    - ✓ 棚田は森林になっていないため整備できない部分が点在していることがある
    - ✓ 源流域に人工林の触れないところが残っていることもあるため、**ガイドラインは必要ではないかと考える**
  - 整備をして光が入り環境は変わってきた様子は見られる
    - ✓ 整備管理しやすいように道をつけることで地元の人は水遊びをするために使うなどの展開もある
    - ✓ これまでの計画にも、「渓畔林の整備」という言葉はあるが、具体的に整備できていないところは多い
  - 造林事業の枠とは違う仕事としてやったが、作業道の計画の枠組みの中でもできるのではないか
    - ✓ ビジョンで位置づけができると堂々と仕事ができる
    - ✓ 現状の補助金事業では、間伐率が高すぎるためできないなど制約がある
  - イメージ戦略として、「美しく」という言葉を入れてもいい

（委員 H）

- ✓ 地形的にも渓畔林は丹波市に多くある
- ✓ 防災対策となるとすぐダム（治山）となるが小規模でも気持ちよくなるような山は多くある印象
- ✓ 平松にもきれいな渓畔林がある、道を少しつけてあげると生物多様性の見学やレクリエーションにも使えそうなエリアがある

・　委員 B

- 住民目線でとらえると、渓畔林、清流は活用しないともったいないと思う
- その場で飲めるような湧き水もある
- 自然の恵みがあるから自分は生かされているという気づきも増やしたい
  - １つの魅力発信として「水」は活用できるのではないか
- **里山整備については、保安林で手がかけられない、保安林でありながら保安林の機能が担保されていない森林もあるため保安林指定されている森林から、見直しが必要ではないか**

（委員 H）

- ✧ 保安林の整備については行政では手立てはあるか

（事務局）

- ✧ 県との調整が必要。地域からの要望に基づいて県に情報を渡す。どういう経過で保安林に指定されたかという背景、理由も整理する必要がある。当時の物差しと現状のずれは整理が必要。
  - ✓ （委員 J）届け出をすれば整備はして良いことになっているため、提出を頂ければよい。伐ってはいけないのは過去の崩壊などにより構造物が入ったりしている急傾斜地は禁伐になっている

・ 委員 C

- ➢ 森林・山村多面的機能発揮対策交付金は 2 期目が終わり 3 期目に入ったところ
  - ✧ 活動組織が足踏みから減少傾向に転向しつつある
  - ✧ 先日知り合いに聞いたところ、申請等がまどろっこしいのでやめたというようなこともいっていた
  - ✧ 山に入ってみて、学生の子たちにでも机上の論理だけではなく現場を知ってもらう貴重な機会もあるため、気づきの場、仕掛けている人にとってやる気が出る事業にされたい
    - ✓ 丹波の独自性をもって支援をされたい
  - ✧ **学習の場づくり**は、森林・山村多面的機能発揮対策交付金では対応できないので考えられたい
    - ✓ （委員 H）以前は多面的の事業でもあったが現在は無くなってしまい、ボランティア的に活動されている現状なので、市のサポートは検討されたい
    - ✓ （事務局）木育関連ではハッピーバース事業で木工などは増えたが山での活動はおっしゃられるように減ってきているためスキーム作りを考えたい

・ 委員 J

- ➢ 渓畔林は生物多様性の意味合いも多い
- ➢ **森林認証**は渓畔林の生物多様性の審査が必須になっているため、既存の枠組みや仕組みを活用されることも検討されたい
- ➢ 先日、進修小学校（丹波市内）の学校林間伐の体験を担当
  - ✧ 継続的に学校林整備の中で出た木材をクラフトする取り組みが数十年間続けられているため、参考にされたい

（事務局）

- ✧ オーガニックビレッジ宣言を、丹波市でもした。何も農業だけでなく、環境に配慮した取り組み、その中に、生物多様性保全というのが取り入れられている中で、丹波市も林業と農業が一緒に、農林振興課で施行していく。公益的機能のなかで、生物多様性というキーワードは既にあったが、全面に出した言葉はなかった。そういう取り組みも、貴重なご意見として、引き続き、ご助言をいただきたい。

・ 委員 H

- 木材のブランディングについて、県産木材を使ったら補助金は今もあるのか
  - 県産材は 30 万円、市産材も 50 万円上限で補助金がある
  - 市内で家を建てられる場合に限る
- 是非、**市内以外でも丹波市産材を使う場合は補助**するなどの拡充は検討されたい

・ 委員 E

- 製材所の立場としては森林資源の利用拡大について、地元産材補助については、毎年予算は余っているのか聞きたい

  (事務局)
  - 年間 800 万円、25 件ほどは使い切っている状況
- 木材利用補助に関して、丹波市の補助は顧客からも使いやすいと好評
  - 委員 H がおっしゃったように、丹波市以外でも丹波市産材を活用する際に補助が出るようにすると顧客、施主も喜ばれるのではないかと思う。
    - 製材事業者も減り、地元産材を回す事業者や取り組みも減ってきているため、特に川中の支援として検討されたい

  (事務局)
  - 行政だけでは販路拡大のための施策に限界がある。ウッドバレー等にも参加しているが業界の関係者で考える場もあるので、皆さんに努力をしていただく場もあると思うが、役割分担で我々もできることを整理と考えている

  (委員 H)
  - 丹波のブランドとなると認証制度があり、木材の品質がブランドに繋がると思うのだが、認証の条件などの現状はどうなっているか
  - （委員 A）補助金の制度設計を変えることで方向性は決めることはできるのではないか。現状は出荷の段階で丹波市産材が証明できれば品質問わない現状。
    - **レベルを上げていくとブランド材を販売するための推進力、環境保全とあわせたものをブランド化していくことも可能ではないか**
    - 丹波市産材の補助金ができてから、見直しが必要な時期ではないか
    - 目的、手段、こういう森林を整備したいという、目指すべき森林と流通が繋がるような形、トレーサビリティが必要になってきている
    - 実際に、森林を整備した際の変化の検証をする人や仕組みも必要になってきているのではないか
    - 地域の役に立つ木材循環であるかという視点でもブランドは構築されたい
  - （委員 I）段階アップが補助金のあるべき姿勢
    - 量と質と物語が必要だが、順々に必要なことを整理したことは示したい

・ 委員 D

- 施業面積を縮小しないといけない現状、需要拡大をして高く売らないと事業を拡大できない
  - 木材の価格競争に優位に働くのであれば良い
  - Ｂ、Ｃ材の有効活用が増えないといけない
  - 先日バンクーバーを訪問したが木材の加工技術（ボード加工等）が進んでいた。丹波市でも技術的な面も導入していきながら木材製品、活用方法を考えたい

（委員 A）

  - サスティナブルな建築というところでは木材流通で見えない部分が多い
  - 価格競争も国内だけでも、だいぶ異なる
  - 都市では運賃は何十万もかけて各地域から集めている
  - 生産、流通の背景も選択の基準に入ってくるのではないかと予想される
  - 条件としては生産者側としては厳しくなるが地域にとっては良くなる
  - 販路、生産量の規模、品質の分け方がポイントになる
    - ✓ ある地域では虫の被害が多く、建築用材の価値は低くなっているが面積はある場合、地域全体で良質材の分布を把握し、直送でしっかりと製材品を供給できるかというマッチングが図られるべき
    - ✓ 現状の木材流通は市場 4 割、直送 4 割、その他 2 割
    - ✓ 低質材の直送に良材が混ざっていたりする
    - ✓ 質を見極めて製材できる製材所が丹波市では残っているため、流通整理はできると考える

・ 委員 G

- 森づくりビジョンを以前に作った際に、丹波市民、森林所有者に見られるということでこの場では理解いただける中で話ができるが、一般市民にした時に難しい内容が多いと感じる
  - 所有者や市民に理解されるように難しく書きすぎないようにされたい
- 経済循環の森ということで、自治会の山にも森林組合が入っているが、道をつけたことで、山の上から街を見ることも地元の人に喜ばれる

（委員 H）

- 確かに、誰に向けてビジョンを発信するかというところで、市民に敬読いただくというところで分かりやすい示し方は必要だろう

・ 委員 F

- 現在の森林整備は、主伐再造林、更新伐を進める方針が強い
- 保安林の中で低コスト更新ということで、植栽本数を 3000 本という指定があるが減らせる場合は減らすということも考えられる
- **早生樹の植樹のガイドラインやメニューも県には無いため検討はされたい**
  - 以前更新伐採で広葉樹を植えてほしいと所有者から言われたが事業化にしてもらうためには数年かかった経緯もある

・ 委員 H

- 丹波の森宣言でも地域景観を守るという項目がある、入り組んだ地形に集落がありその裏手の里山が荒れてきている。棚田があったところが森林化している。集落と山側の間のゾーンが放置されている。丹（まごころ）の森というところで里山もイメージされる市民も多くなると思うが、委員 B や委員 C はどう考えられるか

（委員 B）

- 他力本願的な意見が多い、所有を手放したいということも多い
- または所有意識はあるが木にお金を出してまで整備する意識はほぼ無い
- 自分の森が荒廃していることを見て整備するというよりも近隣の人から苦情が出た時に初めて整備するということが多い

（委員 C）

- 森林組合にお世話になり、経営計画を組んでもらい 48ha 程の間伐をして 10 ㎞ほど作業道をつけてもらった
  - ✓ やってもらってよかったという所有者の声によって、周辺の山がよりよくなることに繋がる
  - ✓ 共有林の整備を事業体や組合にも協力してもらいながら一度整備をしていただきたい
  - ✓ 一度整備をして、良くなった風景を見てもらうことで次の 10 年後の整備（の意欲）につなげていきたい
  - ✓ しいては、木材生産流通、ブランド化にもつながるのではないかと考える
- （委員 H）災害が起きないと関心が向かない、住んでいる所と山の間が獣害対策柵で区切られており、伐りにいかないというようなこともありそう。災害が起きる前に伐ろうということもある
  - ✓ 山に対する関心を持ってもらうのと山づくりが結びつく、最終的に丹（まごころ）の森づくりに紐づけられればよい

・ 委員 B

- ビジョンを作るというところで、森づくりの人材づくりが今は大事だと考えている
- 方針が上がっていることは良いのだが、具体的に今丹波市の中で事業体が減り、育っていない事もあるためどれくらいの人材を確保するのが適正なのだろうか
  - 正直、自治会でやっているのも大事なことではあるが、木材生産と共有を考えると、**専門的な林業従事者がどれくらいの目標に置くのか、どのように人材が育つのかが見えやすくなると良い**
  - 材木屋も減り、地元の人に手が届くような事業者も減ってしまっている
- 環境の問題で、カーボンニュートラル等の問題もあるが、市の中でどれくらいの量が吸収している成果があるのか、生産している木材の環境貢献度が分かるようにしたら市民にとっても分かりやすいのではないか
  - モチベーションを高めるきっかけにもなる

- ✧ 自分たちの団体も、グリーンパートナーとして林野庁に登録されている

（委員 H）

- ✧ 吸収源の数値化は出されているのか

（事務局）

- ✧ 丹波市は令和 5 年から J クレジットの計画、来年施業、7 年度から発行を予定している。公表はさせていただく
  - ✓ 独自に取り組まれている自治体もあるが、そもそも市が取り組むのは市有林が条件になるが現状はどんどん発行できるまとまった森は少ない。先に市が始めて、民間に落とし込み、管理費などを一部市がサポートするような取り組みも進めていきたい

・ 委員 A

- ➢ 造林事業は小さくしているが、補助金枠に応じた計画しかできない。林業の領域を広げるということで環境税を活用していく必要がある
  - ✧ ビジョンに応じた、林業事業体だからこそできる整備をどう取り組めるかが大事なところ
  - ✧ 単純なフォレストワーカー以外の能力も必要になってくる
  - ✧ 独自のフォレスターを作りたいという意向が県からも出てきている
  - ✧ 丹波市に、そのような独自フォレスターが育つか
  - ✧ フォレスターは、林産をよく分かる必要があると考えるが、丹波市には林産が残っている
  - ✧ <u>業界版の人づくり</u>については、必ず必要になってくるだろう
  - ✧ そういう人がいるということが地域のブランドになると思うため、投資しても損ではないはずである
- ➢ 林業普及員もどうしたらよいか分からないということで、空き家問題とセットでどうしようかと考えるワンストップサービスが必要
  - ✧ 空き家対策はすでにされていると思うが、山林と農地もセットでアドバイスが的確にできる仕組みが必要
  - ✧ どうしていいか分からないという人に最初に良い選択肢も示せる、山主を放置しない仕組みが必要

（委員 C）

- ✓ 空き家問題、不在地主に相談されたとき、うちの地域だと大体周辺の所有者はたどることができる（資料がある）

（委員 J）

- ✓ 「森機応変」（https://tanba-satoyama.jp/）のサイトを今後整備して、森林の相続、売買の相談対応も進める予定
- ✓ 県としても急がずに一歩一歩、単なる窓口で終わらないように改変していく予定

（委員 A）

- ✓ 所有者の意識醸成も含むのか、担当に振るだけかで全く結果が変わってくる

- ✓ 先にビジョンの内容を示して丹波市の方針に沿って整備できるような意識醸成、エリア（自治会等）ごとに動きを示す必要がある
- ✓ 現場の活動発信、ボトムアップとしても

（委員 I）

- ✓ 林業のワンストップの相談もあるが、他の自治体としては相続対策、事業継承の視点でワンストップを作ろうという事例も増えつつある
- ✓ 森林ビジョンの延長として、林業だけではなく家や農地も相談できる体制の構築は検討されたい
- ✓ 民間としては中古住宅を買いリフォームして移住者に販売していくという事業者もいる
- ✓ 山もセットで所有者から買い取ることで割安にしてもらう事例もある
- ✓ ※当日配布資料（トータル林業図）についても補足

5 意見交換を受け「市民への分かりやすさ」を上げるための方法について

- 事務局
  - ➢ 基本的には市民に見てもらうために分かりやすく作りたい
  - ➢ 専門用語を書き換えることは難しいため用語解説を多く入れていただければよい
  - ➢ 「丹」は「まごころ」のフリガナを入れてもらいたい
- 委員 B
  - ➢ キーワードとして入れてほしいのは「市民・住民」、丹波市は住民団体の関心度が高い
  - ➢ 「住民参画型の森づくり」という言葉は示されたい
- 委員 D
  - ➢ フォレストドアでは、一般の方がＳＤＧｓ等は分かりづらいため、企業研修として来ていただくことで、企業の設備や事業での木材の利用拡大を狙っている
    - ✧ 企業が丹波市に来てもらうことで、事業再構築補助金やふるさと納税などで活用していただくなどもある
  - ➢ 木材だけではない利活用、間伐跡地の山林利活用事業としてトレッキングコースやＭＴＢの競技大会をするなど、家賃として山林所有者に利益を落としたい
  - ➢ 山林の資源化、生物多様性も守るための価値を算出することも必要、ボランティアではなくビジネスに転換もされたい
    - ✧ 肌感覚ではこういった活動や地域づくりに納税したいという阪神間の経営者は多いように感じている、対企業の窓口も担当できると思う

6 次回スケジュール

- 1 月 24 日(水)14 時～16 時半

以上